

生物多様性

活動・実績

ICTでGreen (Green by ICT)

■ 基地局設置における生物多様性への配慮

KDDIは、基地局の建設では、省エネ化とともに生物多様性への配慮にも注視しています。例えば、オオタカやコウノトリの営巣・産卵期と建設時期が重なる時は、自治体や環境保護団体と協議して建設を遅らせたり、希少な植物が生息している場合は環境省の指導で移植や植林をするなどの対応を行っています。さらに、競走馬や乳牛などが工事の音で出産・種付け・搾乳などに影響が出ないよう、杭打ちの打撃音がしない工法を選択します。基地局建設の必要性をご理解いただきながらも環境影響を最小にするため、自治体や近隣の方々との信頼関係を第一義に取り組んでいます。

■ 絶滅危惧種「野生のカマイルカ」の生態調査

KDDI研究所は、大陸間をつなぐ海底ケーブルの保守点検用の海中ロボットで培った音響技術を生かし、東京大学生産技術研究所、九州工業大学、インド工科大学デリー校、WWFインドアと共同で、ガンジスカマイルカの生態観測を行っています。

ガンジスカマイルカは、ガンジス河流域に生息するイルカで、その数は約2,000頭と絶滅が危惧されています。濁った水中に住む彼らは、周囲の環境を把握するためにクリック音と呼ばれる高い周波数帯の超音波を発しています。この超音波を水中マイクロフォンでキャッチすることで、水中行動を把握することが調査の狙いです。この観測方法は、イルカ側から発せられる超音波を聞くだけで、身体に触れる必要がないためイルカの生態に影響を与えることなく、不特定多数の個体の観測ができるなどのメリットがあります。

2015年度には、生物多様性保全に貢献している取り組みとして、第25回地球環境大賞「フジサンケイグループ賞」を受賞しました。

また、インドネシア ボルネオ島 マハカム河では、水上家屋にも同様の音響観測装置を設置して、カワゴンドウの行動調査を行い、増加する水上交通がイルカに与える影響の評価をしています。

河に生息するイルカは各地で絶滅の危機にひんしており、今後も継続して調査を進めていきます。



活動・実績

お客さま・社員とGreen (Green Road Project)

■ 従業員の環境保全活動

KDDIは、2015年度も全国各地で環境保全活動を実施しました。山、川、海など各地のフィールドにあわせて、従業員とその家族らがボランティア参加しました。

高尾山(東京都八王子市)では、2014年度に引き続き東京都立工芸高等学校の生徒の皆さんと産学連携の活動を行いました。一緒に間伐したヒノキ材を有効活用し、生徒の皆さんがベンチを製作し、活動地近くの老人ホームなどに寄贈しました。

